

これまでの取組

AI経済検討会

AIの社会実装の推進により、どのような社会経済を目指すべきか、基本的な政策や中長期的な戦略の在り方について検討

データ専門分科会

AI時代のデータ経済政策に係る専門的・技術的事項について検討



2019年1月 AI経済検討会 設置

2019年5月 AI経済検討会「報告書2019」公表

2019年12月 データ専門分科会 設置

2020年7月 AI経済検討会「報告書2020」公表

- AIの社会実装のために求められるデータ活用の在り方
- AI時代のデータ経済政策 等

2020年11月 OECD（経済協力開発機構）において、報告書2020の成果を発表

2021年3月 OECD（経済協力開発機構）において、取組状況を発表

2021年8月 AI経済検討会「報告書2021」公表

- データの経済価値に関する検討
- 新型コロナウイルス感染症とデジタル化 等

2021年11月 OECD（経済協力開発機構）において、報告書2020の成果を発表

引き続き、データの経済価値・インパクト等について検討

データの価値・効果の分析

- 活用データ容量は、他の生産要素（資本、労働）と同様に付加価値に対してプラスの関係性を持っていることが示された。
 - ・ AI活用と活用データ容量には、相乗効果があることを示唆
 - ・ 大企業、中小企業ともに、活用データ容量が付加価値にプラスの貢献があることを示唆

分析結果を踏まえた示唆

<全社的なデータ活用環境構築の重要性>

- 特定の業務や部署ではなく、全社的にデータを活用することができる環境の構築・利用が重要
- 基本的な顧客データに加えて、多様・大量のデータを全社的に活用するメリットが拡大する可能性

<人材育成及び組織づくりの重要性>

- データ分析を行う専門部署が存在し、そのような部署でデータ分析が行われることが重要
- データ活用に取り組むための人材の育成やデータ分析を専門に行う組織の構築が有効である可能性

<外部連携（組織、データ）の重要性>

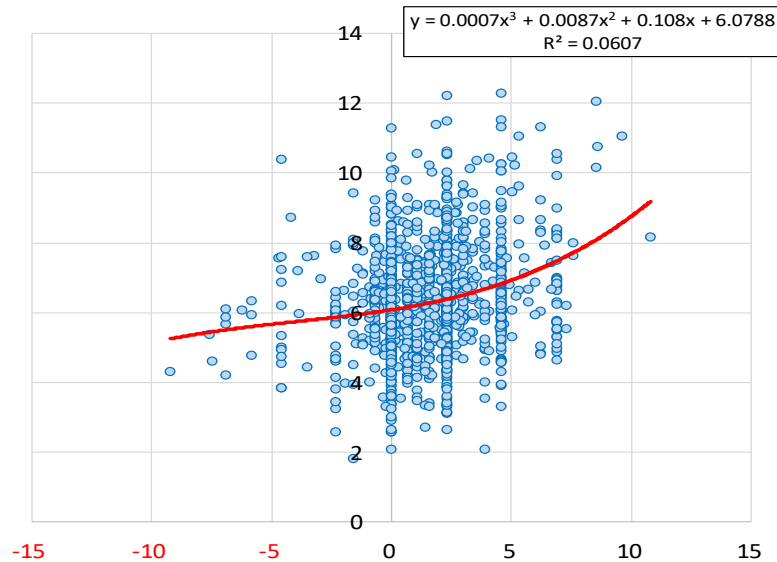
- 外部のデータの利用やアライアンス等による共同分析を行うことが有効
- 外部資源の利用の積極的な取組が有効である可能性

更なる検討に向けて

AI時代のデータ経済政策に資するエビデンス蓄積

「新たな資産」としてのデータの機能・役割を及び効果・価値の測定方法を検討

付加価値と活用データ容量との関係



縦軸：log(付加価値)、横軸：log(活用データ容量)

AIネットワーク社会推進会議 AI経済検討会「報告書2021」 P82

企業へのアンケート調査、ヒアリング等を通じ、
データの経済価値についての調査・分析を精緻化

- ・ データ分析を行う組織・体制
 - ・ 外部連携の効果（データ入手先、共同分析）
 - ・ 業種・分野別の分析
- といった側面を深掘りして、更なるデータ活用の推進に向けた取組を行う

今後の課題

- 投入面（業務の効率化等）だけではなく、産出面（売上の増加等）において効果を上げることが重要
- 中小企業を含めて、AIやデータを用いた新たなビジネスモデルの構築などデジタルトランスフォーメーション（DX）を実現していくことが重要
- 公的部門（行政）、準公共部門（医療、教育など）のデジタル化を推進するための検討や取組の重要性が高いとの指摘

重要な論点

■ デジタル化・データ活用の効果（社会・経済に与える影響）

- ✓ パンデミックはデジタル化・データ活用にどのような影響を与えたか
- ✓ 社会・経済への付加価値がどのようなメカニズムで生み出されるのか
- ✓ どのような外部連携・協働がその付加価値を高めるか
- ✓ 業種・分野ごとの留意すべき特徴と課題は何か

■ 信頼ある自由なデータ流通に向けた環境整備

- ✓ 環境整備に向けて課題は何か
- ✓ 課題解決に向けて、各ステークホルダー（消費者、業界、政府等）のなすべきことは何か
- ✓ 企業内・企業間において、データ流通を妨げている要因はあるか
- ✓ 国際的に取り組むべき課題は何か